

生ごみ、剪定枝や草のごみ減量にご協力ください

問環境政策課廃棄物対策係 ☎内線1881

生ごみは多くの水分を含んでいます

生ごみの水分量は70～80%と言われるように、水分を多く含んでいるため重量があり、腐敗すると悪臭を発生します。

生ごみの水切りをすると悪臭を防止できるほか、ごみの容量が減ることでごみ袋(市指定袋)の枚数も減り、サイズを小さくできます。

生ごみの減量方法

生ごみにしない ～生ごみを出さない工夫をしましょう～

- 買物に行く前に冷蔵庫の中を確認する
- 食べる量を考えてから献立を決める
- 冷蔵庫の中にあるものだけで調理する日を作る

ぬらさない ～無駄にぬらしていませんか？～

- 基本は「最初からぬらさない」こと。野菜などは、使えない部分は最初に分けてから洗いましょう

水切りをする ～悪臭・腐敗防止にもなります～

- ゴム手袋を使用して、直接水切りする
- すぐ捨てずに三角コーナーなどに入れ、一晩置いてから捨てる
- 市販の水切りグッズなどを活用する



剪定枝や草も多くの水分を含んでいます

剪定枝や草を乾燥させるだけでも、15～60%もの減量になると言われています。水分を多く含んでいると、焼却の際、多くのエネルギーが必要となり、処理経費も余分にかかってしまいます。

剪定枝や草の減量方法

- 剪定枝や草は、すぐごみに出さずに土を落として乾燥させましょう
- 天日干しできない場合でも、袋をしぼらず開けておくだけで減量できます



乾燥前の草



乾燥後の草



袋を開けて乾燥させている様子

剪定枝をごみステーションに出す場合

長さ50cm、太さ5cm以下のものはごみ袋(市指定袋)に入れるか、困難な場合は袋に入る程度の量でしぼり、ごみ袋(市指定袋)を貼り付ければごみステーションで回収できます(一度に大袋5袋まで)。長さ50cm、太さ5cmを超えるものは粗大ごみ扱いになるので、碓氷川クリーンセンターに直接、持ち込んでください。

※処理料金：総重量から50kgを差し引いた重量10kgにつき165円(税込み)(50kgまで無料)



市指定袋の貼り付け方